

トピックス 「第8回世界高速鉄道会議」に参加しました

国際鉄道連合(UIC)主催(共催:米国公共輸送協会(APTA))の「第8回世界高速鉄道会議(UIC HighSpeed 2012)」が、7月10日～13日に米国フィラデルフィアで開催され、鉄道総研からも論文発表のほか、展示ブースを出展しました。

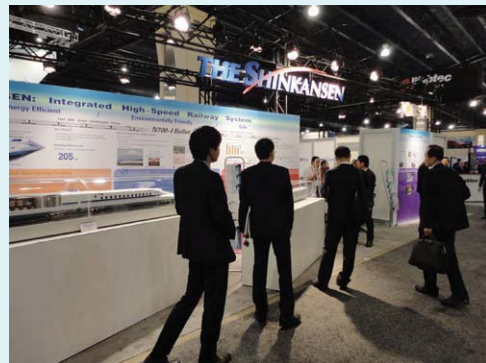
世界高速鉄道会議は、高速鉄道の技術向上や世界展開に対する考え方を紹介し、将来の方向性について意見交換をする場として、1992年から2～3年おきに開催されているものです。

鉄道総研からは、テクニカルセッションで、耐震構造研究室・室野剛隆室長が地震対策を考慮した高速鉄道の敷設計画法について、トンネル研究室・津野究副主任研究員が高速鉄道トンネルの検査・保守の合理的な管理方法について、それぞれ発表しました。今回は米国での開催であり、高速鉄道建設の候補地のひとつであるカリフォルニア州は、地震多発地帯となっています。また、この会議の直前に、同州での高速鉄道の訓練線100milesの建設予算の割当てが決定されたことから、地震国日本での新幹線のルート

設定の考え方が注目され、タイムリーな話題提供となったものです。

また、鉄道総研は、会議に併設の展示会に、日本鉄道車両輸出組合、ならびにJR東日本、JR東海、JR西日本およびJR九州の新幹線運行会社とともに、新幹線技術を保有する機関の一員として共同ブースを出展しました。

次回の世界高速鉄道会議は、UICとJR東日本の共催により、2015年に東京で開催される予定です。



展示会での新幹線ブースの様子